



まちの駅ネットワークだより

おもてなしの心でまちづくり

発行元: まちの駅
ネットワーク焼津
広報部会 焼津市
栄町1-2-14
054-626-6266

発刊に寄せて

まちの駅ネットワーク焼津

代表 関 幸彦



「花の雲鐘は上野か浅草か」と松尾芭蕉の最高傑作の一つと言われる句に詠まれている上野寛永寺。寛永寺の根本中堂の焼失による復旧の木材は大井川奥地から大井川を経て和田の湊から運ばれたものと言われておりますので、上野の山をゆっくり歩いてみようか、などと軽く考え参加した第10回まちの駅全国大会 in 上野でありましたが、北海道から鹿児島までの200名ほどの参加により10月6日の物産展・交流会。7日のまちの駅ディスカッション。まちの駅の現状・まちの駅自慢コンテストと盛りだくさんの日程にもかかわらず内容と活力に満ちた大会で、「まちの駅」を合言葉に和気あいあいのうちにも郷土を思う人達と有意義な時を過ごすことが出来ました。

当初、行政により発足したまちの駅が平成16年を境にして民間主導が主流となり、急速に発展して現在1,200ヶ所に増加しています。まちづくりは、いま地域の単体での取組みの枠を越え、地域間ネットワークを組みながら、防災・災害・安全・安心と多様なテーマを複合させることが注目されるようになってきました。

まちの駅になったからといって、直ぐに人が大勢訪ねて来たり、儲かったりはしません。長く続けていくことで地域の人に認知され、全国のまちの駅仲間とのつながりによって新しい活動やビジネスの可能性が出てきます。

今回の参加にあたって着地型観光をイメージして、群馬県の渋川伊香保ネットワークの方達と事前に連絡をとりお会いしましたが、ここのまちの駅は136ヶ所で全国一の数を誇り、現在でも増え続けており、元気のいい活動に感心させられたところです。

まちの駅ネットワーク焼津も駅長さん達の連携と行動により、マップの作成・ホームページの立ち上げ等々、着々と実績を積み重ねているところでありますが、記念すべき10回目の全国大会が加入初年度となったのも幸先の良さを感じさせてくれます。

官・公・民が一体となった取り組みの活動で地域全体の魅力を高めていきたいものです。

各駅停車

駅番号順に駅長さんを訪ねてお話を聞きます。

1 お菓子の駅 かしはる田尻本店 大石教嗣さん



うちは昭和7年(1932年)に「菓子治」の屋号で始まったお菓子屋で、静岡ならではのお菓子作りをモットーにして季節の和菓子和菓子と洋菓子を製造、市内3店舗、藤枝2店舗、静岡・島田・大井川に各1店舗、合計8店舗で販売しています。今年の9月から「防災ようかん」を販売開始、お陰さまで各方面から好評を頂いているところです。

2 古民家カフェの駅 カフェいわさき 高柳 豊さん



大正10年に建った古民家を再生したカフェ。小泉八雲が滞在した家のすぐそばで、古くからの焼津の町並みを色濃く残す浜通りの小路を少し入ったところにあります。お昼のティータイムの人気メニューは丹波産黒豆を使った「黒豆きな粉ココア」や黒豆の豆乳を使ったプリンの「プルルン豆富」が人気です。週末の金土の夜は数十種類の焼酎や梅酒、志太の地酒を楽しむ酒飲み処になります。

3 いっぱく茶屋の駅 ハットリ製茶 服部えり子さん



駅の名物といえば駅弁だが当駅には生憎お弁当がありません。当駅はお弁当の脇役の「お茶」でございます。年々飲み物も多様化しお茶に、コーヒー、紅茶、ウーロン茶、プーアル茶、ジャスミン茶・・・と色々ございます。飲む方も色々目的をもって飲まれる方も増えまして目覚めの一杯をブラックコーヒーで・・・だったり、体脂肪や今流行のメタボリックにはウーロン茶やプーアル茶など・・・。それぞれ飲み物には効果がございますので自分に合った飲み物を選んで頂ければ幸いです。それでは最後に「お茶を一杯!」。「へい、ありがとうございます!」